

教科等研究会（小学校特別活動部会） 令和 2 年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

互いのよさを出し合うことで、自主的・実践的に課題解決する特別活動
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした集団活動の創造を通して～

2 研究経過

第 1 回			第 2 回			第 3 回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
7 月 1 7 日	1 1 名	広安西 小学校	1 1 月 5 日	御船 中学校	佐藤 貴文 教諭	1 1 月 2 6 日	広安西 小学校	須藤 昂 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。

特別活動では、学級活動、児童会、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能とする。

特別活動の目標に掲げられている「互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」よりよい集団活動の創造過程は、特別活動で育成する重要な資質・能力である「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」を実践的に身に付けていくための重要な機会となる。

よりよい集団活動をめざして、話し合い活動で合意形成された目標や一人一人に役割分担のある協働活動は、互いのよさを集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく集団活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

② サブテーマ

ア 人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人、あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが大切である。

イ 社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

ウ 自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 小学校高学年と中学校、それぞれの学級会の活動を参観できたことで、それぞれの実態をとらえるよい機会となった。
- 撮影した授業の視聴という形で研究会を実施したことで、授業者から、事前指導の様子や本時の授業の内容について説明を行い、あらかじめ参観の視点を絞って授業を見ることができた。
- 第6学年の学級会についての研究会を行ったことで、小学校6年間で身に付けるべき資質・能力について、具体的な児童の姿で理解を深めることができた。
- 学級会の授業を通して、合意形成の在り方について学び合うとともに、討議を通してよりよい実践方法へと深めることができた。
- より自主的・実践的な活動となるような議題を決定していくための課題発見の仕方について、研究を深めていく必要がある。
- 話し合い活動中に多数決を行う際の方法やタイミングなどについて、研究していく必要がある。
- 合意形成をしていく際の意見のつなげ方について、教師の介入の仕方も含めて研究を深めていく必要がある。
- 学習構想案の系統について、各教科とのつながりを研究していく必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

題材の目標	<p>(1) 学校生活をよりよくするための課題を話し合っ解決することや、他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 学校生活をよりよくするための課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。</p> <p>(3) 協働し実践する活動を通して、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活を向上させようとする態度を養う。</p>
題材終了時の児童の姿	学級会等の話し合いで合意形成したことをもとに、役割を分担・協力し、よりよい活動に向けて粘り強く取り組むことができる児童。
題材を通した学習課題	学校のみんが協力したり、仲を深めたりできるような、たて割り班活動を計画し成功させよう。
働かせる見方・考え方	よりよい学校生活づくりに向けて、具体的な場面を想像しながら主体的に解決しようとする。
児童の実態	<p>(資質・能力に関して)</p> <p>普段から、意識して自分の考えに理由をつけて発表できている一方で、友達の発表を自分の考えと比べながら聞いたり、共通点を考えながら聞いたりすることについては、意識が少し低かった。発表を繋ぎ、深めていくためにも、頭言葉を意識して発表させた。そうすることで、聞く姿勢にも変化が見られると考える。</p> <p>(学びに関して)</p> <p>話し合い活動や話し合うことで考えがまとまっていくことに、価値を見いだしている児童が多い。一方で、自分の考えを伝えきれなかったり、しっかりと納得できなかったりすることがあるという児童もいた。事前に声かけを行ったり、司会から発表を促したりすることで、全員が参加し合意形成できる話し合い活動にしたい。</p>
指導上の留意点	<p>○児童が意欲的に話し合い活動や実践活動に取り組むことができるように、活動の目的や意義をはっきりとさせた提案理由を示すようにする。</p> <p>○自信を持って自分の考えを発表できるようにするために、事前に学級会ノートに考えを記入させ、朱入れしておく。</p> <p>○話し合いを円滑に進められるように、事前に意見を短冊に書かせたり、司会の流れを確認したりしておく。</p> <p>○話し合いを円滑に進め深められるように、自分の立場が分かるような頭言葉を使って挙手させる。</p> <p>○意見が偏らないように、賛成意見のみ又は反対意見のみが発言される場合は、司会が違うの意見がないか尋ねて発表を促すようにする。</p> <p>○今後の話し合い活動への意欲や多様な考えを受け入れる気持ちを高めるために、話し合い後には、司会や記録の仕事ぶりや良い意見の伝え方などを紹介・称賛する場を設ける。</p>

授業者自評	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の話し合いでの決定数を4つとしたが、どの意見が通るのか予想が難しかった。 ・議題の設定については、議題発見ボックスなどはあえて作らず、日常の子ども達の会話の中から議題になりそうなものを発見している。 ・提案理由については、必ず学級目標につながるようにしている。自分も子ども達も無理をしないように、長いスパンを設けて一つの活動に取り組んでいる。 ・合意形成をしていく場面で、いろいろな意見にちらばることが多く見られ、焦点化した話し合いをするための手立てが十分でなかった。 ・「シンキングタイム」でより活発な話し合いとなるような工夫が必要だと感じた。
協議より	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で写真を使ったことや前回の学級活動の振り返りなどをしたことで、話し合い活動への意欲が高まった。 ・話し合いの進め方や一人一人の意見の出し方について、全員が理解した上で話し合い活動が行われていた。普段の学級経営が影響していると考えられる。 ・話し合い活動中の教師の介入の仕方がよかった。教師が少数意見を大切にす姿勢を見せることで、温かい雰囲気の中、話し合い活動が進められた。 ・話し合いの途中で提案理由に立ち返る場面があり、方向性をもった話し合いを行うことができた。 ・意見のつなげ方について、どのように教師が介入するのかを考える必要がある。 ・一人一人の意見を短冊に書いて提示している利点を生かし、短冊を動かしながら話し合い活動を行っていくことで、板書の構造化を図り、より活発な話し合いにつなげることができるようにするとよい。 ・意見をより深めていくために、計画委員会などを使って、あらかじめ出される意見を絞り、焦点化することもできるのではないかと。 ・合意形成の場面で、多数決の票数で決めたところがあった。一人一人の意見の理由を大切にすような合意形成の在り方を探っていく必要がある。
<p>まとめ</p> <p>矢部中学校 富士川晶三 校長先生</p> <p>蘇陽南小学校 永田裕通 校長先生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の授業の中に、日頃の学級経営の素晴らしさを見ることができた。 ・授業が始まってすぐに、計画委員会の使い方がよいのが分かった。 ・本当に話し合うべきことが何か先に話し合われていてよかった。 ・提案理由に立ち返ったところがとてもよかった。場合によっては、学級目標に立ち返ることもある。合意形成をしていく際に判断基準になるため、大切にしてほしい。 ・実践するときのことを考えた話し合いになっていた。決定したことが「持続可能か」という点も合意形成をしていく上での判断基準になる。実践した後に、その判断が正しかったかを振り返っていくことも大切である。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加している先生方の学級活動についての知識が豊富である。 ・今回の話し合い活動では、なぜそれがいいと思うのか、全員が具体的に理由を付けて発表することができていた。 ・全員が実践するときのイメージを持って話し合い活動を行っていた。 ・本時の授業のように、賛成や反対を言い合う中で質問がでるのが理想。とてもよかった。 ・「○○だったら賛成です。」など、建設的な意見の出し方をしている児童がいて、とてもよかった。 ・教師がねらいを高くもちすぎる必要はない。大人がもうちょっと…と思うくらいでもよい。 ・年度当初に、議題や提案理由について児童と共通理解を図ることが大切。 ・意見のちらばりをなくすために、計画委員会で話し合いの内容を絞って進める方法もある。 ・意見が多く出された場合は、賛成反対の理由を聞いた上で、「いいと思うもの5つを選ぶ」などして、意見をいくつか絞って話し合いを進めるとよい。 ・議題を決定する上では、いかに普段から子どもの声に気付き、反応できるかが大切。普段から子どもの様子にアンテナを高く張っておきたい。 ・学級活動と他教科との関係は密接である。

(2) 学習構想案

○本時の目標

七滝中央パークに向けて、どんな内容にするかを考え、多様な意見のよさを生かしながらかし合
うことができる。

○本時の学習展開

第4回 名もなき学級会 計画			
議題	七中フレンドパーク (仮) を開催しよう！		
提案理由	今年、縦割り班の活動がなかなかできていません。七中フレンドパーク (仮) では、学年関係なく仲を深めることができるし、みんなで協力する心が学校全体に広がると思 います。また、この取り組みをみんなで成功させれば、学級目標の「学校のためにリーダ ーとして動く」にも近づくとおもいます。		
話し合いの めあて	○発表をよく聞き、友だちの意見に繋げて発表をしよう。 ○協力する心が広がるようなアトラクションを考えよう。		
決まっ ている こと	○七中フレンドパークは12月4日、11日の昼休みに行う。 ○縦割り班毎にアトラクションを回る。 ○スタンプカードを用意して、達成したらスタンプを押していく。 ○室内で行える種目にする。 ○アトラクションは4つ決める。		
学習 課程	学習活動 (◇司会者の発言、・予想される児童の発言)	指導上の留意点 (○：留意点、【】：評価)	備考
導 入 7分	1 はじめの言葉 2 役割の確認 3 議題と提案理由の確認 4 決まっていることと柱の確認 5 めあての確認 6 先生の話	○司会グループが自分のめあてが言えるよ うに、事前に指導しておく。 ○活動の意義や目的を確認できるように、 提案理由を確認する。 ○話し合いへの意欲が高まるように、他学年 の教師からの手紙を紹介する。	学級会 セット 学級会 ノート
展 開 30分	7 話し合い ◇柱は「パークのアトラクションを考えよ う」です。意見を発表してください。 ・ボーリングがいいと思います。1年生で も、転がすことはできると思うからで す。 ・長縄が良いと思います。みんなで息を合 わせて跳ぶと、仲も深まると思うからで す。 ・的当てがいいと思います。班で協力して 的を倒すことができるからです。 ・めいろがいいです。班の意みみんなで相談 してゴールを目指せるからです。 ・神経衰弱がいいと思います。みんなで協 力して覚えようとするところからです。 ・フラフープリレーがいいです。班全員で 協力してやれるからです。 など ◇出された意見に質問はありませんか。 ◇出された意見に賛成・反対・合体等を出 してください。 ◇それでは、多数決で決定します。一人4 回手を挙げてください。多いものから順 に4個決めます。	○話し合いの時間を管理できるように、司会の手 元にタイマー (時計) を用意しておく。 ○賛成・反対が分かりやすいように、短冊の下 にカードを貼っていく。 ○話し合いを視覚化し児童の判断材料になるよ うに、懸案については、短冊に書き出し意見の 下に掲示していく。 ○賛成・反対の意見が出にくい場合は、児童が 考えを整理できるように、シンキングタイム をとる。 ○話し合いを深めるために、立場が分かるよ うな頭言葉を使って挙手させる。 ○賛成・反対に意見が偏る場合は、司会者が反 対意見を尋ねて発言を促す。 ○円滑に買いを進めるために、明らかに意見が 偏った場合には、司会がフロアへ決定や否決 を尋ねる。 ○話し合いの様子を見て、目的 (提案理由) から それる場合は、助言を行う。	司会者 お助け ノート 時計 短冊 賛成・ 反 対 カード
<p>【期待される学びの姿】</p> <p>提案理由に沿って具体的な場面を想像しながら意見を出し合 い、創意工夫を生かしてアトラクションの内容を考えている。</p>			
終 末 8分	8 決まったことの確認 9 振り返り 10 振り返りの発表 11 先生の話 12 おわりの言葉	○全員参加の意識を高めるため、発言の少ない 児童を司会に指名させる。 ○今後の活動意欲向上のために、司会の仕事ぶ りや話し合いの仕方、発言の内容について称賛 する。	

【評価基準】思① (観察)
友達の意見と自分の考えを比べながら聞き、折り合いを
つけながらめあてに沿って話し合っている。
(到達していない児童への手立て)
学級会ノートを確認させたり、シンキングタイムを利用
して友達の意見への賛否を尋ねて発表を促したりする。